

2030年度末までに北海道新幹線は札幌へ！ ところで、並行在来線ってどうなるの？①

現在、2030年度末までの開業を目指し、北海道新幹線（新函館北斗－札幌間）の工事が進められています。この話題と並んで「並行在来線」という言葉も新聞やテレビで見聞きしたことがあるのではないでしょうか？

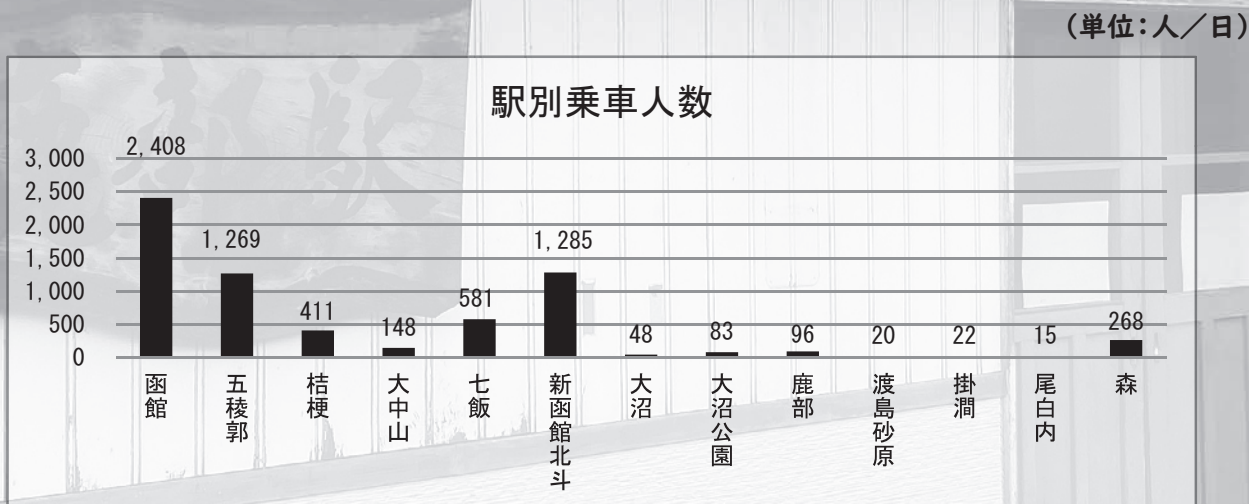
今回は、並行在来線について特集します。

①並行在来線とは？

整備新幹線区間を並行する形で運行する、JRが経営する在来線鉄道のこと。沿線すべての市町村から同意を得たうえで、整備新幹線の開業時に経営分離されることになっています。北海道新幹線では、鹿部駅を含む函館線（函館－小樽間）が並行在来線に該当します。

②各駅の利用状況（2018年度）

2018年度における、函館線（函館－長万部間）の1日あたりの駅別乗車人数は以下のとおりです。ご覧のとおり、鹿部駅の1日あたりの乗車人数は96人です。96人の内訳は通勤定期が3人、通学定期が64人、定期外が29人となっています。



※乗車人員が10人以上の駅のみ抜粋

③並行在来線についての議論の状況は？

北海道では、北海道新幹線（新函館北斗－札幌間）の開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線（函館－小樽間）について、沿線15市町とともに「北海道新幹線並行在来線対策協議会」を組織し、地域交通の確保に関する検討を行っています。この協議会の中で、北海道新幹線開業後に第三セクター方式で鉄道を運営する際の費用等を試算して、今後の方向性について議論を進めています。

次月号の特集では、費用等の試算結果について取り上げます。

詳しい資料は北海道ホームページに掲載されています。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/stk/heizai.html>

▼お問い合わせは、役場企画振興課企画振興係（7-5297）へ。